ギターの歴史（上）　　小原安正

一説によりますとギターの起源はエジプト時代であると言われています。

ナイル河の水がかれてしまって剥製になった動物の皮が、そこらに散らばっていたものから始まったのでしょう。多分、亀の死体に張られたセンイを当時の人がはじいてみて、音が出るのに。驚いたか、又は、狩に出て矢を放す時に生ずる独特な音をきいて音色の音を感じたかも知れません。

そうした後は．弓は狩のために使うのではなく又は戦争のためでもなく、自分の気にいった音を求めるために、長短いろいろな弓を作ったのではないかと言われています。

こうした事情からギターのようなものが作られたのは紀元前三千年も昔のことと今では考えられています。

紀元前二千年ごろ、ヘンデル人はシリヤからパレスティナ地方までひろがって住んでいたのです。 キノルという楽器をひくのが大変上手だったそうですが、これは五百年後、エジプトの神典又は象形文字の中にネフェルという名になって現われてきます。これはギターのような形のものです。

「テバスの王」の墓標や壁に、必ず単独か又は他の違った楽器と一緒にほりこまれています。

又、エジプトにあった方尖碑には卵形のギターらしきものが描かれてあって、象形文字で『善い』という意味が加えてあります。ツリーンの博物館には、エジプト第二十五王朝のパピルス（当時の紙）がありますが、これには動物の音楽家たちの情景が画かれていて、特にひときわ目立って、一匹のワニが･ギターをひいているところがあります。

そしてこれには明きらかに十六のフレツがついていて、その完成した姿に驚かないわけにはゆきません。

十二世紀ごろにはスペイン、又はイタリアでギターの名はシターラからギターラに変りました。なおギターは英語読みです。

そして１６世紀に入りますと、ギターと共にビウェーラという、よく似た楽器も発達してカペソーン、ミラン、ナルバエス。フェンアーナ、サンス、ビセオなどの人家を続々と生み出し、彼らはすばらしい作品を書き残していて、これらは現代でも愛奏されています。

この後、ビウエーラは一時おとろえて。その代わりギターがスペイン人の間にひろがってゆきます。又、中欧のりユートは十八世紀まで非常に流行していて、ロンカルリ、バイスなどの名人が生まれます。この世紀の末ごろには、ギターとリュートの間に生存競争が行われます。リュートはヨーロッパ人の大半の国で盛んにひかれましたが、ギターはただイタリアとスペインの民衆に親しまれていたにすぎませんでした。

リュートを弾く男（16 世紀の版画）

しかしその後音楽の都　ウィーンでギターの音と能力がリュートよりすぐれているのを立証したのはイタリア人たちで、カルリ、ジュリアーニ、カルカッシ、レニアーニ、レゴンデイ等が著名です。又、スペインではアグアドとソルが出てパリやロンドンで活躍し、ギターの黄金時代を作りました。

この後、一八一三年偉大な作曲家ワグナーによってオペラが盛んになり、又、ベルリオーズも世に出て、大きなオーケストラが好まれるようになります。ハガニーニやリスト、ショパンなどによるケンランとしたバイオリンやピアノの音楽がひろまるにてれて音楽の様式も大きくなってゆき、ギターの持つ内面的な美しさは、ともすれば忘れられがちになり人々の強烈、決速、強い音を求めてギターから去ってゆく時代がきますが、これに抵抗し

てコストはスペイン伝説やイタリアのオペラのメロディをギターに移したりして、メルツと同じような活動を続けます、しかし大勢は既に決していて、ギターはここで衰微いたします。

しかし一八五四年スペインにフランシスコ・タルレガが生まれることによって、ギターは新しい息吹とともに再び世に出ることになります。

一般的にタルレガは『ギターのショパン』と呼ばれています。ショパンは『ピアノでなくてはひけない独自の音楽性』をその楽器に与えました。たとえばショパンのマズルカでも、ワルツでも、これを他の楽器に移しかえるとしますと、全く価値の少ないものになってしまいます。

これと同じようにタルレガの作品はギターの最深部に達しているので、やはり他の楽器に移しかえることは出来ません。

そこにはギターだけの世界があるからです。　このような独自の世界に彼が到達する為に技法を全く新らしいものに改変する必要があり、このために日夜、彼は研究に没頭しました。そしてあらゆる音に意味をもたせるために、そして音色を指定するために厳重な運指を付しました。

これによって今までのギターの世界になかった新天地を築きあげました。

タルレガの功績はこればかりではありません。バッハ、ヘンデル、ハイドン、ツユーベルト、メンデルスゾーンなどの多くの作品をギターに移しかえました。又、スペイン人としての立場からグラナドス、アルベニスの作品を数多くギターに侈し、もともと、これらの作品のもっているギターの精神をひき出しています。

アルベニスは『自分のオリジナル作品よりもタルレガのギター編曲作品の方がすぐれている』とまで言ってタルレガを激賞しています。

又、タルレガの時代にトルレスという最高のギタ一製作家が生まれています。今までのギターに音量と力を与え、演奏用に役立つギターを作り出したのです。

タルレガの高弟に数人の巨匠がいます。ミゲール・りヨベート、エミりオ・プジョール、ダニエル・フォルテアなどで現存しているのはプジョールだけですが、この他に直接ではありませんかセゴビアが大きな影響を受けています。

セゴビアはギターを世界にひろめた功労者であり、又、芸術性を高めた点でも最も偉大なギタリストです。

日本に始めて来たのは昭和四年のことでしたから、当時の日本では、彼の芸術を理解出来たのは少なかったようです。

セゴビアが全世界にギターをひろめたことによって多くの優秀なギタリストが各国に生れました。